

はじめに

内定者の声を手に取ってくださり、ありがとうございます。

この冊子は、国家公務員や環境省に興味を持ってくださった皆さんに対して、平成 31 年 4 月入省予定者が中心となって作成した内定者体験記です。環境省の PR だけではなく、皆 さんに分け隔てなく有用な情報を提供することを目的としています。志望動機や環境省の魅力、国家公務員試験や官庁訪問への準備の仕方やコツなどを、内定者の視点からリアルにお 伝えします。説明会への参加が困難な方や、身近に OB・OG がいない方、もうすでに様々 な情報にアクセスしている皆様にも、有意義な情報を広くお伝えしたいと思っています。

自然系職員を目指す方はもちろん、国家公務員試験の受験を迷っているという方におかれましても、この「内定者の声」が環境省のことについて知るきっかけとなり、そして私たちの経験が皆さんの進路選択の一助となることができれば幸いです。

(平成31年度 環境省総合職自然系 内定者一同)

※その他情報について

各職種の詳しい業務内容やお知らせ、試験などに関する最新の情報については、環境省および人事院のホームページをご覧いただくか、直接お問い合わせください。

『環境省ホームページ http://www.env.go.jp/ 』

『環境省総合職自然系ページ http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g3/index.html 』 『環境省レンジャーの仕事

『人事院国家公務員試験採用情報 NAVI http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm 』

目次

基礎情報 •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
内定者の概要	-																				6
内定者からの	情	報																			8
Αさん		•	•	•	•	•										•		•		•	8
Bさん																•					11
Cさん																•					13
Dさん																•					16
Eさん																•					18
Fさん																•					20
Gさん																•		•			24
巻末資料 受	験	で	使	用	し	た	参	考	書	•	資	料	_	覧							28

基礎情報

平成30年度 国家公務員総合職試験および内定までの流れ

平成31年度の日程は公務員試験採用情報NAVIをご確認ください。

(http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm)

日程	内容	備考						
2/1	受験案内の HP 掲載開始日							
3/30~4/9	申込受付期間(インターネット)							
4/29	第一次試験日	服装自由						
	午前:専門試験(多肢選択式)	翌日 HP に解答掲載						
	午後:基礎能力試験(多肢選択式)							
5/11	第一次試験合格者発表日	HP 掲載、合格通知書(二次試験の						
		日時・会場の通知)						
5/27	第二次試験日 (筆記試験)	服装自由						
	午前:専門試験(記述式)	人物試験の日時・会場の通知						
	午後:政策論文※(大卒のみ)	(大卒:手渡し 院卒:ハガキ)						
※政策論文詞	式験では課題文と資料が与えられ、小論	文形式で解答します。過去問請求が						
可能です。								
5/29~6/15	第二次試験 (大卒のみ)	日時変更は原則不可						
	人物試験※	提出物(外部英語試験の証明書						
		類、卒業証明書など)に注意!						
		スーツ(クールビズ)推奨						
※人事院が第	実施する面接官3名対受験生1名の面接	で、時間は一人 20 分程度です。						
基本的に、	当日提出する面接カードに沿った内容	を質問されます。						
6/8~15	第二次試験(院卒のみ)	同上						
	政策課題討議試験※、人物試験							
※政策論文詞	※政策論文試験と同じく課題と資料が与えられ、内容について5~6人1組で意見発表							
や討議を行い、試験官3名がその様子を評価します。過去問は請求できません。								
6/29	最終合格者発表	HP 掲載、合格通知書						
<mark>7/4~6</mark>	官庁訪問 第1クール ※	スーツ(クールビズ)推奨						
7/9~11	官庁訪問 第2クール							
7/18	内々定解禁							

※31年度の官庁訪問開始は最終合格発表の翌日となります。ご注意ください。

環境省のお仕事について

環境省の職員は、事務系、理工系、自然系の3つに分かれています。自然系職員(通称レンジャー)の業務内容等については、環境省総合職自然系ページ上に掲載されている下記パンフレットをご覧ください。

(環境省レンジャーの仕事 http://www.env.go.jp/guide/saiyo/info/pamph/ranger_web.pdf)

試験区分

環境省総合職自然系は、森林・自然環境区分もしくは化学・生物・薬学区分から採用されます。平成31年度入省予定者7名のうち、森林・自然環境区分が6名、化学・生物・薬学区分は1名でした。総合職では、試験区分による業務内容の違いはありません。

試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVIの受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用試験受験案内

http://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/jyukennannnaiichiran.htm)

官庁訪問

◆ 官庁訪問とは?

官庁訪問とは、各省庁に採用してもらうためのいわゆる『採用面接』です。人物試験と同様に、面接カードを提出したうえで面接を行います。総合職試験に最終合格すると、3年間有効の合格者名簿に名前が載ることになりますが、合格=採用ではありません。官庁訪問こそ志望省庁から採用されるための最後にして最大の難関とも言えます。総合職の官庁訪問は、訪問開始以降、第1クール〜第5クールまでの日程(クール制)で行われ、その後、内々定解禁という流れになります。原則として、1クールにつき1つの省庁への訪問は1回で、合格すれば次のクールの官庁訪問も行うことができます。平成30年度の官庁訪問の詳細については、下記を参照して下さい。

(総合職試験(院卒・大卒) 採用までの流れ(平成30年度)

http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo sougou02.htm)

官庁訪問では複数の志望省庁を訪問することになると思います。通常は志望度の高い省庁から順に訪問しますが、環境省自然系では2日目以降に訪問したからといって採用されないということはありません。官庁訪問の日程やルール等については、毎年人事院より発表されますが、次のクールの訪問日が省庁側から指定される場合と、こちらが選べる場合

があるなど、各省庁によって具体的な進め方が異なります。可能であれば志望する省庁の OB・OG 等に尋ねて、どの省庁を何日目に訪問するか事前に計画しておきましょう。また、遠方の人はかなり長期戦(約2週間)になるため、ホテルや飛行機の手配などを早めに行うことをおすすめします。

◆ 環境省の官庁訪問について

平成 30 年度の環境省総合職自然系の官庁訪問は個人面接のみ、第 1 クールと第 2 クールの計 2 日間実施されました。第 1 クールは初日のみ先着順、2 日目以降は事前予約が必要でした。定員は一日に 20 名程度です。面接順は採用の可否に全く影響しませんのでご安心ください。第 2 クールは、第 1 クールの結果通知メールで指定された日時に訪問しました。

上記の内容は全て平成30年度の情報です。最新の情報や詳細については人事院や環境省の採用ホームページ、あるいは必要に応じて採用担当者に確認してください。

内定者の概要

7名の内定者の選択科目等の基本情報と、どんな学生時代を過ごしたか・なぜ環境省自然系を志望したか、等をアンケートしました。

A.基本情報編

試験での選択科目等の基本情報をまとめました。次章「内定者からの情報」を読む際のインデックスとしてご活用ください。

質問	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん
基本情報編							
学部卒 or 院卒	院卒	院卒	院卒	学部卒	院卒	院卒	院卒
試験区分	森林•自然環境	森林•自然環境	森林•自然環境	森林•自然環境	森林•自然環境	森林•自然環境	化学·生物·薬学
一次専門選択科目	森林環境科学 森林資源科学 造園計画(自然公園)	森林環境科学 森林資源科学 森林生物生産科学	森林環境科学 森林資源科学 造園計画(自然公園)	森林環境科学 森林資源科学 造園計画(自然公園) ※森林生物生産科学も 視野	森林環境科学 森林資源科学 造園計画(自然公園)	造園学原論·造園材料 造園計画(自然公園) 造園計画(都市公園)	科目11~16 生化学・分子生物学 応用微生物学・生物工学 発生生物学・生理学 細胞生物学・形態学・ 放射線生物学 遺伝学・進化学 生態学・動物行動学・ 系統分類学
二次専門選択科目	自然環境・公園緑地に関する 基礎	森林科学に関する基礎	森林科学に関する基礎	森林科学に関する基礎 ※「自然環境・公園緑地に 関する基礎」も視野	自然環境・公園緑地に関する 基礎	自然環境・公園緑地に関する 基礎	科目13、18 分子生物学·生物工学 遺伝学
大学での専攻	畜産科学	森林生態学	地域資源管理学• 野生動物管理学	国語学国文学	造園	野生動物学	分子生物学·生理学
併願先	研究職	林野庁 県庁(林業職) 独立行政法人 建設コンサルタント	環境コンサルタント 環境省 一般職	林野庁総合職 環境省一般職 地方上級(林業職) 木材商社	環境コンサルタント メーカー	林野庁 WWF	環境コンサルタント 食品メーカー (研究開発)
サークル・部活	探検部	農業活動サークル	ツキノワグマ研究会	新聞サークル 野鳥サークル	サイクリング部	軽音 生物工学実験	オーケストラ
アルバイト	歩荷 環境コンサルタント補助 研究補助	動物園や博物館での作業補助アルバイト	居酒屋にて4年間	個別塾講師	環境・防災 コンサルタント(調査) ジムインストラクター 山小屋	料理店 講師 銭湯の番台 英語ガイド	清掃員 馬と触れ合える児童公園の スタッフ
その他の学外活動			大震災の被災地での ボランティアやワークショップ などに数回 サークル関係で他大学等の 行う野生動物調査に参加	国立公園への旅行 渡り鳥の生態調査の補助	ニュージーランドでの ワーキングホリデー	タイに1年間留学 ウガンダで4ヶ月調査 環境問題に関わる映画を上映 する活動など	動物園の飼育補助 オーストラリアに5ヶ月間 留学、滞在中に実習や ボランティアで野生動物調査
レンジャーになりたいと 思ったのはいつ頃?	本格的には2018年2月中旬	修士1年の初め頃	最初に気になったのは 大学1年のころ。修士1年で本 格的に視野に。	大学3年の夏から秋ごろ	大学3年の夏ごろ	大学3~4年	気になり始めたのは2017年 10月。本格的には2018年 3月。

B.内定者ってどんな人?編

内定者にはどんなメンバーが揃っているのでしょうか? 好きな国立公園、学生時代の思い出など様々な質問を投げかけてみました。

質問	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん
内定者ってどんな人?編							
行ったことのある国立公園は いくつある?	15	9	8	大学に入ってからは6 幼少時等も含めると10ヶ所ほど	国内22、海外8	11	6
好きな国立公園・理由	支笏洞爺 一番よく行って遊んだ国立 公園。	秩父多摩甲斐国立公園 一番通っていた国立公園 なので、思い出深い。	十和田八幡平国立公園 大学在籍中に自然に親しんだ 思い出の場所。新緑と紅葉が 特に好き。四季がとてもはっきり していて、行くたびに山の雰囲気 が変わっているのも魅力的。		奄美群島国立公園 生物多様性と文化の共生感が たまらない!	西表国立公園 貴重な固有種を多く持ち、 保全活動に大変熱心な点。	秩父多摩甲斐国立公園 いちばん身近で、また初めて 現地のレンジャーの方にお会い した場所。
環境省で関心のある仕事内容	野生動物管理。レンジャーに 興味を持ったきっかけでもある。 管理を持続させる仕組みづくりに 貢献したい。	生物多様性保全、野生鳥獣 保護管理、動物愛護、外来生物 … すみません、選べません…	自然環境保全や生物多様性 保全に関わる仕事に関心が ある。経済や社会といった 人間側の諸問題と自然環境の 保全をうまく両立できる仕組みや 制度作りに関わりたい。「地域 循環共生圏」のような、自然の恵 み(地域資源)を持続的に活用 することで、人と自然が共生する 地域社会の実現に貢献したい。	全部ですがあえて一つに絞るなら生物多様性の主流化推進。	国立公園、温泉、 エコツーリズムなど、自然資源の 利用機会の整備に興味がある。	野生動物保全管理· 絶滅危惧種保護	生物多様性保全、特に全国的な生態系のモニタリング・生態系サービスの評価など。
学生時代に一番印象に残った経験	農場で研究や家畜の世話の 手伝いをして過ごした経験。 もっとタフになる必要があると 知った。	海外留学		海鳥」「地元漁民が島に捧げる		とても難しい、、選びきれません・アフリカで調査中、野生のゾウに遭遇・自由な寮に所属、ヤギもウサギもニワトリもそばにいる生活・イスラム圏(イラン・トルコ)やインド旅行時、人々の優しさに驚いた。日本国内の偏った価値観を自分も持っていたことに気づいた時。	の日々で、年間3~6回ほど コンサートホールで演奏した。 小学校での子供向け演奏会や、 小規模演奏会の企画等もした。 周りの人と相談しあって、工夫 して準備することや、緊張しても 最後は人前に出るのを楽しむ こと等の経験は他でも活きて
趣味	登山 映画鑑賞 読書 工作 (適当な)料理	読書	山歩き 山菜取り 読書 音楽鑑賞	読書(自然・文化)、旅行 喫茶店 拉麺 散歩 漫画アニメ 自然観賞	登山 トレイルランニング 自転車(競技)	旅行 写真 和菓子巡り やったことないことをやること	ホルン 散歩 読書 (最近は)旅行、料理
自分を二次熟語で表すと?	書生(いつまでも書生のまま ではいけないけれど)	甘党	混沌	文系	直走	奔放·混沌	頑固
就職活動中に会った 先輩レンジャーの方々の印象	穏やかであった。また、奔放さと それを隠さない素直さを感じた。	気さくな方が多いと思いました。	自然やアウトドアが好きで、 アクティブな印象を受けました。 霞が関では仮の姿…。	飾らない雰囲気で話しやすい	しっかりと目を見て話す、一言一 句がとても丁寧、自然環境への 熱い想いが溢れ出ている。		フランクで気さくな方が多い。 どの方もとても話しやすく、 安心させてくださる方でした。

内定者からの情報

プロフィールや志望動機、体験記といった情報を内定者ひとりひとりが書きました。

Αさん

(1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】博士課程中退 研究機関契約職員 (3か月間)

【学年・性別・年齢】博士課程1年・男・25歳

【専攻科目】畜産

【試験区分】森林・自然環境(院卒)

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、造園計画(自然公園)

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】地方で4回、東京で3回

【併願先】研究機関、環境・農業コンサル、地方自治体(公益性とフィールドを軸に)

(2) 志望動機

公害問題に取り組んだ田中正造の伝記を読み、人の役に立ちたいなあと漠然と思っていました。登山を趣味に持ち、また大学で農業を学び、獣害について研究する中で、自然環境とうまく付き合うのは大変だが公益上重要であると感じました。自然環境に関する社会的な仕組みは発展途上なので、研究のような技術的な課題解決だけでなく、仕組みの整備など社会に働きかける行政の仕事も求められていると感じるようになり、総合職自然系職員を志望しました。

説明会では環境省全体の雰囲気として長期的かつ地球規模の公益を重視していることが 感じられ、志望動機が強まりました。

(3)体験記

●勉強方法

【総括】

勉強方法に関して(それ以外の多くのことに関しても)私が最も重要だと思うのは、PDCAサイクルです。合格に向けて計画的に勉強し(Plan と Do)、自分の現在の力量を確認し(Check)、それに応じて勉強計画を改善する(Act)ことをこまめに行っていくことが重要だと思います。

【1次:基礎能力試験】

基礎能力は、本番では時間配分を失敗しました。過去問を2年分解いて20点台を確認し、油断しました。本番では難しい問題にこだわったために他の簡単な文章問題などにあまり時間が割けませんでした。時間配分という自分の弱点を認識すべきでした。

解く→驕り・過信、、、→本番でパニック(泣)

【1次:専門多肢選択式試験 & 2次:専門記述式試験】

森林・自然環境は全くの専門外だったので多くの時間を割きました(専門は畜産です)。

特に教科書などの資料を集めることに苦労しましたが、幸いにも大学図書館に林業や自然環境系の資料が充実していました。今までの試験問題と自分の理解度から勉強すべきテーマを整理し、それに沿う内容の資料を探すことに時間をかなり割きました。

~解く→勉強すべきテーマの抽出→資料を探す→読み、ノートにまとめる~

【2 次:人物試験】

面接は面接カードの内容に沿って話が進みました。相手の知りたいことを察して自分のアピールポイントや考えを簡潔に伝える能力というか、行動が求められています。授業や説明会で見知らぬ方に質問する、大学の先生とお話しする、ゼミで発言する、など日々の様々な場面がよい訓練にもなると思います。うまく受け答えができているか、自問するとよいと思います。

〜伝えたいことを検討→面接カードを書く→他人に見せる、時間をおいて自分で見る〜

【2次:政策課題討議試験】

政策討論は自己評価が難しいと思うので、できるだけ本番に近い形で練習し、仲間同士コメントしあうことをお勧めします。また面接と同じく、日々の様々な対人関係がよい訓練になるでしょう。

ここで役に立つ能力は、論理的思考・説明力、コミュニケーション能力、数理的分析能力など非常に多様です。自分の持ち味を積極的に生かす、場面ごとに不足している役割を担う、など活躍の形も様々だと思います。

私の場合は、まず議論全体の流れを提案したこと、議論に参加していないけれど意見を出 しそうな方に話を振ったこと、などが加点ポイントだったかなと思います。ユニークでない (無難な)視点や意見しか思いつかなかったこと、声が小さかったこと、作成した資料が汚か ったことが反省点です。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

自分が環境省の仕事に魅力を感じるようになった経緯などをウシのように反芻していま した。面接でスムーズに伝えられるようになり、またモチベーションを高く保つことにつな がりました。

山が好きなので、ときどき息抜きに午前中に近くの山に登って午後から大学に戻って勉強、 といった暮らしをしていました。試験勉強によって、普段見ていた景色がなぜそうなってい るのか、だんだん説明できるようになるのが楽しかったです。

●官庁訪問

朝にカレーを食べるとスパイスが脳を活性化させて最高の 1 日が過ごせる、という 2011 年ごろに見たバラエティ番組由来の知識をいまだに信じており、正念場では朝カレーを行い、 気合を入れています。各試験の日にも食べたと思います。

ゲストハウスに泊まって東京に滞在しました。物理的な近さや移動時間よりは、面接会場まで乗り換えない、景色がよさそう、などを基準に選びました。

官庁訪問での面接は様々な形式で行われましたが、全体を通して、志望動機や公務への興味などを深堀りされたことが印象に残っています。どういった前提から自分の意見が生じたのか、自分の提案はどういった結果を期待しているのか、といった因果関係の上流と下流を考える癖が役に立ったと感じています。

●アドバイス、メッセージ

何をするにも計画的に PDCA サイクルを回していくことが大切だと思います。また自分以外の人間との交流は PDCA サイクルをより良いものにし、お互いの精神的なケアにもなります。私の場合は、官庁訪問の前日でさえ、ゲストハウスで偶然同宿となった国家公務員志望者とお話しし、面接の受け答えなどのアドバイスを求めてしまいました(迷惑だったかな…お礼に祖母の家庭菜園で採れたジャガイモをあげました)。

まとめると、私の就活が満足いく結果に終わったことには、計画的な準備と見直しを行い、 それを友人と交流して深めることが強く影響していると感じています。みなさんに満足のい く進路とその道を共に支え合って歩く良き友人が見つかることをお祈りします。

就活と研究などのスケジュール

Feb-2018	Mar-2018	Apr-2018	May-2018	Jun-2018	Jul-2018
修論を書き、	ヒツジの分	ウシの分娩。	ウマの放牧。	牧草の刈取	官庁訪問を
自然環境行	娩。仔羊を襲	サンプリン	ウマとシカ	りが始まる。	終える。
政の重要性	うカラスを	グ中に雪が	が並んで草	仔鹿も刈取	沢の中で夏
と魅力に思	追い払う。専	降ってかじ	を食む。2次	られる。2次	の陽を喜ぶ。
い至る。雪山	門試験の勉	かむ。専門試	試験の勉強	試験の練習。	
に少し入る。	強。	験の勉強。	と練習。	民間面接。	

Bさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士2年・女性・26歳

【専攻科目】森林生態学

【試験区分】森林・自然環境(院卒)

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、森林生物生産科学

【二次専門選択科目】森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】霞が関特別講演、二次試験後の説明会・2回

【併願先】林野庁、県庁(林業職)、独立行政法人、民間企業(建設コンサル)

(2)志望動機

幼いころから動物好きで、調べ学習で外来生物をテーマにしたり、動物保護施設でボランティアを行ったりしていました。人と自然が共存する方法を学びたいと考えて大学に入ったものの、国内外でのさまざまな取り組みを知れば知るほど、現場のみでの対応に限界を感じるようになっていました。そんな中、大学の実習で自然保護官事務所を訪れる機会に恵まれ、地域の人と自然、双方のために好循環を作り出そうと奔走するレンジャーの方々の姿に感銘を受け、環境省を志望するようになりました。

(3)体験記

●勉強方法

【1次:基礎能力試験】

本格的に試験対策を始めたのは2月後半からでしたので、時間がある方は他の方の勉強方法を参考にすることをおすすめします。私は判断推理と数的処理が苦手だったので、『解法の玉手箱』シリーズをメインに、時折『国家総合職過去問500』を解き、模試を数回受けました。時事ネタが好きだったので『速攻の時事』は2周読みました。

【1次:専門多肢選択式試験】

出題内容が大学の専攻と被っていたため、最新版の『森林・林業白書』を2周読み、大学で行われていた対策講座(計9時間)を受けたのみです。

【2 次:専門記述式試験】

上記に加えて、『森林・林業白書』をもう1周読みました。

【2 次:人物試験】

『現職人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本』を読みながら面接カードを 作成し、『現職採点官が教える!合格面接術』を参考に発言内容を練りました。

加えて、大学で行われていた対策講座の中で実践練習を積むことで、自身の欠点や癖を 知ることができました。また、併願先を受験する中で面接にある程度慣れていました。

【2次:政策課題討議試験/政策論文】

こちらも大学で実践形式の対策講座を受けました。普段、家族と議論をしながらニュースや新聞を見ていたことがとても役に立ったと思います。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

電車の中やちょっとした待ち時間に参考書を読んだり、面接で言うことを考えたりと隙間 時間を活用していました。「就職活動が思うようにいかなくても死なない」と考えるように してあまり根を詰めず、健康第一を心掛けていました。

●官庁訪問

『内定者の声』と、少し古いですが『こども環境白書』に目を通しました。面接カードは大学で公務員試験対策専門の講師の方に添削していただきました。『内定者の声』に「最初に第一希望省庁を訪問すると緊張する」との記述があったため、環境省には第1クールの3日目に訪問しました。他省庁の待合室は張り詰めた雰囲気だったのに対し、環境省ではBGM

が流れる中でお茶とお菓子が準備されていて驚きました。以前から、環境省が深く関わる外 来生物や動物愛護行政、福島第一原発等の課題に関心があったため、「普段は話せない環境 省の方とお話しできる!」という期待感が大きかったです。

●アドバイス、メッセージ

まさか自分が受かるとは思っていませんでしたが、外部英語試験で 25 点の加点を受けたこと、院卒者試験で倍率や合格最低点がそこまで高くなかったこと、人物試験で良い評価をいただけたことが大きかったと思います。

就職活動は、普通なら会えないような色々な業界の方とお話しできるせっかくの機会です。 今から考えると、就活は相性、相性は百戦錬磨の人事の方が考えてくださる、と割り切れた ことが良かったと感じます。「公務員試験は難しいらしい」「民間は興味ない」などと壁を作 らず、学生の方はぜひその身分を利用して、できるだけ色々な経験をしてみることをおすす めします。

Cさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修士課程修了見込み

【学年・性別・年齢】修士2年・男性・25歳

【専攻科目】地域資源管理学

【試験区分】森林・自然環境(院卒)

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、造園計画(自然公園)

【二次専門選択科目】森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】説明会0回、本省インターンシップ1回(修士1年・夏)

【併願先】環境・建設コンサル、環境省(一般職)

(2) 志望動機

自然環境を保全するために、多様な主体と協働しながら、環境問題だけでなく、社会や 経済の諸問題も同時に解決していこうとする環境省の姿勢に惹かれました。もともと自然 や生き物に興味があり、将来は環境保全に関わる仕事につきたいと考えていましたが、大学で学ぶ中で自然環境を保全するには地域社会の持続性や多様なステークホルダーのことも考えて進めていく必要があると気づきました。環境省で人も自然も win-win となれる仕組みづくりや取り組みを進めていきたいと考え、志望しました。

(3)体験記

●勉強方法

【1次:基礎能力試験】

最初から最後まで、過去問を中心に解きました。特に自分の苦手分野の数的処理・判断推理に集中的に取り組みました。毎回時間を図り、早く解けるように繰り返し練習しました。問題数の多い基礎能力試験は時間内に解くことかできるかが大事だと思ったので、全体的に「早く解く」ことを意識しました。苦手分野はとにかく解法やパターンを覚えて習得すること、得意分野は落とさないことが重要かと思います。

【1次:専門多肢選択式試験】

早くからの対策を心がけました。選択とはいえ出題範囲が広いので、まずは過去問を解いてみて出題傾向をつかみ、白書と必携を読み込んでいきました。できるだけたくさん過去問を解いて、わからないことはその都度調べるようにしました。自分の場合、専用ノートを作り、間違えた問題やその関連知識を書き込んでいきました。その際、2次の専門記述試験も意識して、できるだけ自分の言葉で説明できるように心がけました。

【2次:専門記述式試験】

2次の専門記述は1次の専門多肢の延長線上にあると思います。1次の対策の時から、自分の言葉で説明できるように心がけて練習しました。特に今までに多く出題されている分野を重点的に対策しました。また、白書やネットで関連事項を調べ、最近の動向についてもつかむようにしました。

【2 次:人物試験】

最低限のマナーはジョブカフェ等を利用し、練習しました。頭ではわかっていても、実際にやるとなかなか難しいので練習しておいたほうが良いと思います。面接は自己分析をしっかりとしておくことが何よりも大切です。言いたいことは丸暗記しようとせずに、これについて話そうと考えておく程度にして臨機応変に対応できるようにしました。また、面接は慣れることも大切だと思います。自分の場合、民間を受けていたので良い訓練にな

りました。

【2次:政策課題討議試験/政策論文】

特に対策はしませんでしたが、何が課題に出るかわからなかったので新聞や時事に関する本を読んでいました。普段から、ニュースや時事問題に対して自分なりの意見を持つように心がけることが大切かと思います。友人と議論をするのも良いと思います。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

もともと夜型でしたが、早寝早起きの規則正しい生活を送ることを心がけました。また、できるだけ毎日新聞を読むようにし、社会の動きを掴むようにしました。民間の就活も同時に行っていたので、一つ一つの結果に一喜一憂せずに早めの気持ちの切り替えを意識しました。

また、自分は将来何を大切にして生きていきたいのかということを就職活動中ずっと考えていました。どこに就職するのかという目先のことではなく、その先のことを考えることであまり深刻になりすぎず、内定が決まるまでの期間を過ごせた気がします。また、モチベーションの維持にも役立ちました。

●官庁訪問

2次の人物試験対策と同じく、自己分析と環境省の業務内容についての研究を中心に行いました。自己分析は例えば、今まで自分が何に興味を持ってきたのか、大学生活で得たもの、志望動機、将来取り組みたいことなどについて掘り下げて考えました。業務内容についての研究は、実際にお仕事をされている職員の方と話をすることになるので、白書やホームページなどを読んで気になったことや興味を持ったことをまとめておきました。実際の面接では、あまり肩肘をはらず、会話を楽しもうというくらいの心持ちで望みました。自分のことや興味のあることなどを、分かっていただけるように伝えることを心がけました。

●アドバイス、メッセージ

公務員対策の試験勉強は早くから始めるに越したことはないです。範囲が広いので、時間を掛けたほうがカバーできる範囲が広がります。ただ、時間がなくても焦る必要はなく、確実に点数を取れる部分をつくることも大切だと思います。自分の場合、勉強を始めるのが遅れてしまいましたが、基礎能力試験は高得点を目指すのではなく合格ラインに達するのを目標にし、専門試験対策に時間を割きました。配点比率はしっかりと確認して対策したほうが

良いと思います。

また自分の場合、最初から公務員に絞っていたわけではなく民間企業も複数受けていました。民間を受けるにしろ、公務員を受けるにしろ、最終的に大事になるのは自己分析と業界研究だと思います。自分は何をしたいのかをしっかり考えることが面接対策にもつながります。特に、過去の経験をふりかえり、そこから何が得られたのか、そしてどうして環境省を目指したのかについてしっかりと掘り下げておいたほうが良いと思います。また面接はある程度、慣れの問題になるかと思います。国家総合職の面接は時期的に遅いので、その前に民間企業の選考を受けるととても良い経験になると思います。

最後に、周りの人が何をやっているのかや勉強の進み具合など、どうしても気になってしまうとは思いますが、あまり周りを気にせず、自分を信じてマイペースにこつこつと準備をすることが何よりも近道になると思います。応援しています。

Dさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部4年・男性・22歳

【専攻科目】国語学国文学

【試験区分】森林·自然環境(大卒)

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、造園計画(自然公園)

【二次専門選択科目】森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】個別説明会、合同説明会、霞ヶ関 open ゼミ・4回ほど

【併願先】林野庁総合職、環境省一般職、地方上級(林業職)、木材商社

(2)志望動機

新聞サークルでとある無人島について特集を企画してそこの自然と文化、歴史を様々に調べ、実地にも足を運びました。全ての作業が楽しくて労苦を感じなかったので、仕事にするのもこうして自然と関われるものが良いと強く思い始めます。それから色々探して辿り着いたのが環境省レンジャーでした。魅力は、自然の中で仕事をする機会があるという

のは勿論ですが、本省勤務で政策立案等に携われるというのも大きな点です。広く深く自然と人々のことを学びつつ両者のいい関係構築に貢献していけるような仕事で、心惹かれます。

(3)体験記

●勉強方法

【1次:基礎能力試験】

専門多岐選択式の方に力を入れたので、基礎能力は最低限を行いました。過去問を二年分ほど解いて感触を掴み、時事問題の参考書を一周と、数的処理の問題集をとばしとばし一周こなしました。

【1次:専門多肢選択式試験】

必須回答分は、高校までの生物地学や日頃の読書と自然観察で何とか。選択回答分のうち森林科学系は『森林・林業実務必携』と『森林林業白書』を読めば大体カバーでき、自然公園系は国立公園ホームページを散策したり自然系のニュースを日々収集したりしておけば大丈夫だったと記憶しています。過去問は五年分ほどやりました。

【2 次:専門記述式試験】

過去問を見て、どのようなテーマが出題されてきたのかを確認したのみで済ませましたが、それは日頃から新聞サークルで文章を書くことが多かったおかげだと思います。対策としては、そういうサークルに入るのもいいですが、他にはレポートや論文で練習を積んでおくか、過去問を解いてみたのを知人に添削してもらうか等が考えられるでしょう。

【2 次:人物試験】

待ち時間を気を揉まずに過ごすため、本などを携行するべきです。そして案内される部屋によって面接官の気質がかなり違うこともあるので、「意外と優しかったし安心していいよ」など、誰か一人の体験談を鵜呑みにするのは良くありません。どんな人に当たっても正直に話すまでと覚悟し、自己分析を徹底しておくのが一番の対策かと思います。

【2 次:政策論文】

過激な事、非常識な事さえ書かなければ、そう点差はつかないだろうと私は思います。 ただ回答を書き切ったのは時間ギリギリでした。記述に際しては限界まで凝ったり悩んだ りする癖があるためです。そういった自分の特性はよく把握しておくと役立ちます。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

環境省総合職自然系が第一志望なのは勿論でしたが、第二第三の進路もしっかり考え、レンジャーに落ちても迷いなくそちらを目指していけるという心づもりにしていました。もし他の選択肢が無い状態に陥ってしまうと、肝心のレンジャー試験でも緊張が高まりすぎて本領を発揮できないでしょう。視野は広く遠く持っておくことが良いと思います。

●官庁訪問

前述の通り、あまり気張りすぎずに臨みました。それでも周りに凄く不安がっている人はいますし、恐ろしい都市伝説も流れます(面接では合格者に対してのみ秘密の合図が出される云々)。これらを受け流す術を修得しておくことは案外大事かもしれません。もっとも、自然体で話してくれる人も勿論います。私の周りには運よくそのような人が多かったので、文学部ではあまり作れなかった自然系の友人が一気にできたような嬉しい気分でした。

●アドバイス、メッセージ

自然が好きで日頃から本を読んだりネットサーフィンしたり野外に出たりする人なら誰でも総合職自然系に採用される可能性が十分あると思います。専攻分野が違っても、とりあえず過去問をやってみて、合格ラインを確認してみましょう。おや、一年あれば意外といけるのでは……となったのが私です。最初から諦めなくて良かったと感じ入る次第です。

Eさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士2年・男性・25歳

【専攻科目】造園

【試験区分】森林・自然環境(院卒)

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、造園計画(自然公園)

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】国家公務員説明会(京都)、レンジャー座談会2回・計3回

【併願先】国家一般職、北海道庁(環境職)、環境・防災コンサル、メーカー

(2) 志望動機

小中学生のときに見た環境番組がきっかけで、環境保全に関わる仕事に興味を持ちはじめました。その後、大学3年時の研究室配属時に、現在の指導教官へ「川をきれいにしたい!」と相談したところ、「君はどのように川をきれいにしたいのか。試験管を振りたいのか。それとも人をつなげたいのか」と聞かれ、(そのときの直感で)後者の考え方について学べる研究室を選びました。そして縁に恵まれ、その研究室の社会人ドクターだった先輩レンジャーと出会い、この自然系職員の仕事を知りました。それ以降も、国内外の国立公園や自然保護地域、里地・里山などへ訪れる中で、「人と自然のかかわり」という大きなテーマに携わることができるレンジャーの仕事にますます惹かれていきました。今後働いていく上で、予算や法律、事業等を通じて地域課題の根本から携われることが大きなやりがいになるだろうと感じています。

(3)体験記

●勉強方法

☆M1 のときに国家一般職を受験していたことが大きなアドバンテージでした

【1次:基礎能力試験】

勉強期間:4月~

①過去問の解き直し ②速攻の時事の熟読

⇒取れるところを落とさないよう、時間配分を設定するために過去問を活用しました (数的推理は対策に時間かかる印象があったので、試験では全く時間を充てていません)

【1次:専門多肢選択式試験】

勉強期間:2~4月

①過去問の解き直しを複数回 ②白書の熟読 ③動画サイトで試験範囲のキーワード検索 ⇒特に専門外の範囲は映像を見ることで印象が深く残ったのでおすすめです。

【2次:専門記述式試験】

勉強期間:2~5月

①過去問の解き直し ②法律・制度・事業等の内容整理

⇒専門多肢選択試験と範囲が重なるので、1次試験の勉強時から2次試験を意識して、丁寧

に情報を整理することが大切かと思います。

【2 次:人物試験】

対策期間:特別設けてはいません

①自己分析 ②民間就活 ③日常会話

⇒重要なことは論理立てて話すことだと思います。その機会は日常生活の中にたくさんあるはずなので、友達や家族と何気ない話をするときも練習の場として意識していました。(練習でホームランを意識したことがない人が、試合でホームランを打つことはできない、と高校のときに野球部の監督から教わりました。)

【2次:政策課題討議試験】

対策期間:特別設けてはいません

①同期・後輩と模擬実践 ②ゼミでの議論 ③仲間とのおしゃべり

⇒人物試験のアドバイスと同様ですが、日常生活におけるディスカッションの場はとても 貴重なので、大学のゼミなど人が集まる機会を特に大切にしました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

- ・働くとは何か、自分はどんな仕事がしたいのか、ということをずっと考えていました。
- ・休みの日は、国立公園等で自然と触れ合いながら身体を動かしていました。(このときが 一番柔軟に考えごとをできたような気がします)

●官庁訪問

官庁訪問は、先輩レンジャーと自分の考えを共有できる絶好の機会だと捉えていました。 基本的に私はレンジャーをはじめ、国立公園や自然に係わる仕事を志望していたので、自分の考えに対してどのようなアドバイスを頂けるのかがとても楽しみでした。

そして、実際に官庁訪問を経験して、面接当日よりもそれまでの準備期間がとても重要であると感じました。どのような質問がきても、本番前にそのことについて1度でも考えたことがあれば、それはとても大きな武器になります。そのためには、普段考えていることを全てノート等に整理することをおすすめします。その記録は、就職活動だけでなくこれから働いていく上でも大事な宝物になると思います。

●アドバイス、メッセージ

私は就職活動を通じて大切だと感じたことが2つありました。

1 つは、自己分析です。具体的には、自分の考えていること、やっていることに対して、 常に「なぜ?どうして?」と自問自答をすることです。その答えは人それぞれだと思います ので、あまり肩肘を張らず、素直に考えることがポイントだと思います。

もう1つは、自己分析の結果をできるだけ早く行動に移すことです。試験勉強や企業研究、 インターンシップなどに打ち込んだ時間は嘘をつきません。また、その積み上げた結果は言 葉よりも強力な意思表示になりますので、失敗は気にせず、思い切ってやってみることが大 切だと思います。

就職活動は長い道のりですが、大事なときに風邪などで倒れてしまうとそれまでの努力が 全て水の泡ですので、体調管理には特に気をつけて頑張ってください。

Fさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士2年・女性・25歳

【専攻科目】野生動物学

【試験区分】森林自然環境(院卒試験)

【一次専門選択科目】

造園学原論・造園材料、造園計画(都市公園)、造園計画(自然公園)

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】大学開催の説明会(事務系)、JOBトーク、合同説明会、

二次試験後の説明会・4-5回ほど

【併願先】環境省一般職、林野庁、NGO、民間企業

(2)志望動機

幼い頃から山中の自然豊かな土地で育ち、自然への親しみを育んできました。大学での講義を通し野生動物保全に興味を持ち、留学や研究生活の中で日本や海外の様々な国立公園を訪れました。その中で近隣住民と野生動物の衝突を多く目の当たりにし、野生動物と人間の共存を目指すために貢献したいと願うようになりました。環境省でのインターンシップを通

して、住民の方々の声を親身になって聞き、多方面との調整の中で最善策を模索する職員の 方の姿に感銘を受けました。現場と政策を結ぶ公務員として国立公園、ひいては地方の活性 化に取り組みたく、自然系職員を志望しました。

(3)体験記

●勉強方法

【1次:基礎能力試験】

年が明けたころから時折『国家総合職過去問 500』を開き数問解くことしかしておらず、 気づけば4月になっていたためあまり対策をとることができませんでした。もう少し早めに 準備を行うことをお勧めします。数的処理は最後まで苦手で、結局本番もほとんど解くこと ができませんでした。前々日に『速攻の時事』を買い読んだのがかなり助けになったと思い ます。本番はどこから解くのか、どのパートに何分割くのかを前もって決めておくと時間切 れで解けた問題が解けなかった、ということを防ぐことができ良いと思います。

【1次:専門多肢選択式試験】

基礎能力より配点が高いこと、基礎能力より勉強が楽しいことから専門分野の対策の方に多く時間を割きました。自分の専門分野とも異なる、全く新しい知識を取り込む必要があり大変でしたが楽しい一面もありました。とにかく過去問を解きました。間違えた問題は『森林・林業実務必携』・『森林・林業白書』や環境省・国土交通省のwebサイトを調べまくり関連の知識や法律がまとまっているページをひたすら印刷し、ファイリングしていきました。そのうち見たことある問題が増え、どのページにその情報が載っているか把握できるようになりました。試験直前まで環境省の国立公園の一覧のwebページを見て復習していました。

【2次:専門記述式試験】

1次試験に合格してから対策を始めました。同じく過去問を解いたことと、最近話題になっている事柄を中心に本やwebサイトで学びました。TOEICの加点をもらえたことは大きかったと思います。

【2 次:人物試験】

国家公務員試験に合格していた先輩方に面接カードをお借りし、参考にしながら面接カードを作成しました。大学のキャリアサポートルームで開催していた面接練習に2回参加しました。本番は緊張しましたが、面接カードに沿って質問が来たのでそれほど焦ることはありませんでした。この時からしっかりと自分の志望動機を固めておくと、面接官の方にも一貫した印象を持っていただけると思います。

【2次:政策課題討議試験】

同じ分野の合格者の方に声をかけていただき、政策課題討議の練習を2回ほど行いました。練習をしたことで全体の流れや気を付けるべきことがはっきりし、大きな助けになったと感じています。本番も練習を共にした方々にお会いできたので、とても心強かったです。身近に受験している知り合いがいない方もいると思いますが、ぜひ機会があれば声をかけて練習や情報交換などしてみるといいことがあると思います。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

楽観的に、楽しく乗り切ることを心がけました。周りの国立公園に遊びに行ったり、関連の本を読んだりしながら、自分は何に興味があって何がしたいのか考えを深めていたような気がします。そもそも興味のある分野であったので、同じ興味を持つ方々、現在最前線で活躍している方々とお話しできるのを楽しみにしていました。後は博士課程に進むことも考えていたので、研究と奨学金申請に追われていました。

●官庁訪問

学会のため渡航していた海外で試験合格の報を受け、直前の帰国となり不安を感じる余裕もありませんでした。面接カードを読み直し、どのような質問が来るか自分で繰り返しシミュレーションしていました。第1クールの1日目に訪問しましたが、開始前に行列ができていたので早めに来てよかったと感じました。本番では様々な質問を頂きましたが、自分の専門分野に関わる質問、面接カードに記載されていることについてより深めた質問が多かったと記憶しています。相手の気持ちを汲み、誠実に回答することを心がけました。1日目で簡潔に説明できなかった質問の回答を、帰ってからもう一度練り直しました。そのおかげで、2日目に同じ質問を頂いた際はしっかりと自分の言葉で回答することができました。待ち時間が長いことを危惧していましたが、待合室での雰囲気がとてもよかったので、周りの方々と研究内容の話や自然の話が沢山でき、とても楽しく過ごすことができました。こんなに同分野に興味を持つ方と大勢お会いできることが中々なかったので、もっとお話ししたいとさえ思いました。

●アドバイス、メッセージ

最初にレンジャーになりたいと思い、その後国家公務員試験というものを知った自分がよく合格することができたな、と驚いています。内定を頂くまでにお会いしたレンジャーの 方々が総じて自然体で、生き生きとしてらっしゃったのが印象的でした。自分もこんな風に 仕事をしていきたいな、と思うことができました。面接で最後に力になってくれたのは、自 分が今まで興味を持って打ち込んできたことでした。就職のために貯めた経験値よりも、 自分が本当にやってみたくてしてきたことの方が結果的に面接官の方を惹きつけるこ とができるのではないかと思います。加えて、国家公務員の仕事は技術職であっても 様々な人と接することが多いので、多様な人と潤滑に交流できる人が求められていると 感じました。ぜひいろんな世界に接して、視野を広げてみてください。面白い方にお会 いできるのを私も楽しみにしています。

Gさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修士課程修了

【学年・性別・年齢】既卒 (2018年9月修了)・女性・24歳

【専攻科目】分子生物学・生理学

【試験区分】化学・生物・薬学(院卒)

【一次専門選択科目】

生化学・分子生物学、応用微生物学・生物工学、発生生物学・生理学、細胞生物学・形態学・放射線生物学、遺伝学・進化学、生態学・動物行動学・系統分類学 【二次専門選択科目】分子生物学・生物工学、遺伝学

【参加した説明会・回数】大学開催の説明会(事務系)、JOBトーク、霞ヶ関 open ゼミ、一次試験後の合同説明会等 4 回ほど

【併願先】環境・建設コンサル、食品メーカー (研究開発)

(2) 志望動機

野生動物や自然と、人の共生のために働きかけられる仕事がしたいと思ったためです。

小さい頃から動物が好きで、動物に関わる仕事がしたいと考えていました。大学の専攻は 動物の生態や保全との直接の関連はありませんでしたが、並行して動物園の飼育員のボラン ティアや、海外の国立公園の訪問、短期留学での動物の生態調査などを少しずつ体験し、野 生動物やその保全に興味をもつようになりました。当初は研究職に興味があったのですが、 いろいろ体験する中で、専門家の立場だけでなく、地元の人や自治体など様々な人と一緒に 自然環境・野生動物の保全にアプローチできるような仕事はないか、と考えるようになり、 レンジャーに行き着きました。

(3)体験記

●勉強方法

【1次:基礎能力試験】

1次の対策期間:直前2~3週間(民間就活と並行、かなり付け焼刃)

- (1) 過去問1年分を時間無制限で解く → 得意不得意をもとに時間配分を決める
- (2) 他の過去問 1~2 年分を、決めた時間配分で1 問ずつ解く練習 少ない練習でも対策になりそうな国語・英語と理系科目を多めに解いて、分からない ところは高校~大学 1・2 年次の教科書を見て調べました。

【1次:専門多肢選択式試験】

過去問を解いて、わからなかったところ・周辺トピックを教科書等で調べてノートにま とめる、というスタイルで勉強しました(2年分くらい)。

【2次:専門記述式試験】

対策期間:1ヶ月ほど(1次試験のあと)

- (1) 過去問を大問1問ずつにわけ、まず自分で解答を書く
- (2) 教科書で出題部分の内容をよく読む
- (3) 解答を修正、ポイントをノートにまとめる

以上を繰り返して2年分くらいやりました。新しいことを勉強するよりも、学部でよく 読んだ教科書を中心に読み返し、うろ覚えの知識を正確に確認しなおすようにしました。

【2 次:人物試験】

面接カード・面接練習とも、なるべく多くの人に見せてコメントをもらったほうが、分かりやすい書き方や、質問されやすい話題がわかると思います。

面接カードは早めから取り組み、民間就活のエントリーシートを添削しあっていた友人 や、大学のキャリアカウンセラー、両親などなるべく多くの人に見てもらいました。また 人物試験対策のワークショップ(大学開催)で他の人と面接カードを読みあい、お互いに 模擬面接をしました。直前に大学のキャリアセンターで1度面接練習をしました。

【2次:政策課題討議試験】

あまり対策しませんでした。形式を調べ、過去にあった問題をもとにレジュメ作成~自分の意見を話す練習を1回だけやりました。

- ●内定までの過ごし方、心がけたこと 就職活動全般を通して、
- (1) 自分は最終的に、どんなことを仕事にして生きていきたいのか
- (2) 各志望先でもし内定をもらったら、どんな仕事を経験し、どのようなキャリアパスを歩みたいのか(10年後くらいまで具体的に)

を考えることを心がけていました。就活中はどうしても「いかに内定をもらうか」に気をとられそうになりますが、特に(2)をなるべく詳しく想像(妄想?)すると、志望先が自分の仕事のイメージと合っているかが少しずつ見えてきます。新卒の就職先がどこになっても、その先に何通りも選択肢があると気づけると、就活のプレッシャーも減るのではないでしょうか。「やりたいこと」を面接で話す際の助けにもなったと思います。

●官庁訪問

訪問カードは二次試験の面接カードと同様、友人や両親に何度か見てもらいました。裏面を見ない方も居ると聞いたので、基本は表面で完結するようにまとめ、裏面はさらに読みたい方のためにエピソードを追加するイメージで作りました。

- ・なぜ環境省自然系を志望するのか(そこで何がしたいのか)
- ・自分の性質やこれまでに経験してきたことのうち、何が活かせそうなのか をなるべくクリアに説明することを心がけました。

就職活動初期は、まさか官庁訪問まで進むとは思っておらず、政策や環境省の取り組みは 知らないことばかりでした。慌てて環境白書を読みましたが、内容を覚えるよりは、環境省 のどこに興味をもったか、環境省で自分は何ができると考えているのか、を具体的にするた めの情報を探して読むようにしました。

実際の面接は、志望動機・やりたいことや、自分の性質・性格を深く聞かれることが多かったと思います。(政策など具体的な話題の知識や意見を問われることはあまりなく、その点の準備が不十分だった私は内心ほっとしました。)また、全国転勤や海外勤務は大丈夫か、体力に自信はあるか、ということは繰り返し確認されました。女性職員の方が実際にどのように働いているか、こちらから質問できる機会も多く、じっくりお話を聞けました。意図して変化球の質問を投げてくる人もいたように感じたので、落ち着いて、そのとき考えたことをはっきり喋ることが大切だと思います。

蛇足ですが、待合室が和気藹々としていて楽しかったです。私はフィールドに出る研究を

専門にしていなかったので、調査にどんどん行っている人の話などを聞くのが新鮮でした。

- ●アドバイス、メッセージ
- ★「化学・生物・薬学」で受験したいけれど、区分選択に不安がある方へ 試験はあくまで面接参加のための予選なので、自分が一番力を発揮できる科目を選んで大 丈夫です!私が感じた2点の不安と、実際はどうであったかを記しておきます。
- (1) 採用時に森林・自然環境の受験者が優先されるのでは?

(過去の化学・生物・薬学からの採用人数が少ない)

- →説明会で質問しましたが、官庁訪問において試験区分は採用に関係しない、と明言 されました。実際の官庁訪問では、そもそも化学・生物・薬学からの訪問者にあまり 出会いませんでした。その人数比率が採用人数に表れているのかな、と思いました。
- (2) 森林・自然環境の勉強をしないと、面接でも知識不足で困るのではないか?→自分が何をしたいか説明するために、環境省の仕事内容や周辺の制度はもちろん学んだ方がいいです。ただ私自身は、面接で一般的な知識を問われて焦るような場面は無かったです。
- ★試験に限らずですが、自分にあったやり方を探して、頑張ってください。応援しています。

巻末資料

受験で使用した参考書・資料一覧

※赤字のものは2人以上が利用していた参考書・資料です。

○基礎能力試験

- ・過去問 …ほぼ全員が利用。人事院への請求か大学から入手。
- ・速攻の時事(実務教育出版)…時事についてはこの参考書を使う人が多数。

他には…

- ・新スーパー過去問ゼミ
- ・国家総合職過去問500
- ・数的推理がみるみるわかる!解法の玉手箱(実務教育出版)
- ・キャンベル生物学(丸善出版)
- 大学や高校の教科書

○専門試験

<森林・自然環境区分>

- 過去間
- ・森林・林業白書 …ほぼ全員が利用。森林自然環境区分の受験者は必読。
- ・森林林業実務必携…こちらもほぼ全員が利用。高価だが、過去問を解く際には、森林 林 業白書と併せて利用すると良い。
- ・環境白書 …最近の環境関連の最新トピックや課題などが分かる。
- ・環境省 HP

他には…

- 生物多様性白書
- ·林野庁 HP
- ・森林の百科 (朝倉書店)
- ・森のバランス(東海大学出版部)
- · 生物多様性概論(朝倉書店)
- · 森林科学(文永堂出版)

- ・アメリカ版 大学生物学の教科書(講談社ブルーバックス)
- ・地学基礎を初めから丁寧に(東進ブックス)
- ·SNS(自然環境系の NPO、行政、民間企業、

学者、ジャーナリストなどをフォロー)

<化学・生物・薬学区分>

- 過去問
- ・キャンベル生物学(丸善出版)
- ・細胞の分子生物学(ニュートンプレス)

○面接

- ・現職人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本(実務教育出版)
- ・現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本(実務教育出版)
- ・公務員試験 現職採点官が教える!合格面接術(実務教育出版)

○政策論文・討論

・政策討論課題(大学のキャリアセンターから)

○官庁訪問

- ・内定者の声 …官庁訪問に関しては内定者の声を参考にしている人が多数。
- ・こども環境白書…環境白書よりも内容が簡潔にまとまっており、分かりやすい。
- 環境白書

他には…

- ·環境省 HP
- · 雑誌 國立公園 (一般財団法人 自然公園財団)
- 国立公園論(南方新社)

○その他

足尾鉱毒事件の谷中村の話です。いい公務 員になりたいと感じました。

- ・辛酸 (KADOKAWA)
- ・バッタを倒しにアフリカへ(光文社)
- ・新聞のネット記事 (特に自然系の話題)

バッタを倒しにアフリカへ行く研究者の 話です。困っている人の助けになりたい と感じました。

自然系の話題を中心に時事を追いかけていました。筆記・面接どちらの対策にもなったと思います。